

# 四半期報告書

(第84期第1四半期)

アツギ株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
3 【関係会社の状況】 .....	3
4 【従業員の状況】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【生産、受注及び販売の状況】 .....	4
2 【事業等のリスク】 .....	4
3 【経営上の重要な契約等】 .....	4
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
第3 【設備の状況】 .....	7
第4 【提出会社の状況】 .....	8
1 【株式等の状況】 .....	8
2 【株価の推移】 .....	9
3 【役員の状況】 .....	9
第5 【経理の状況】 .....	10
1 【四半期連結財務諸表】 .....	11
2 【その他】 .....	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	23

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年8月6日

【四半期会計期間】 第84期 第1四半期  
(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

【会社名】 アツギ株式会社

【英訳名】 ATSUGI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤 本 義 治

【本店の所在の場所】 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

【電話番号】 046(235)8104

【事務連絡者氏名】 経理部長 八 町 政 敏

【最寄りの連絡場所】 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

【電話番号】 046(235)8104

【事務連絡者氏名】 経理部長 八 町 政 敏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第83期 第1四半期 連結累計(会計)期間	第84期 第1四半期 連結累計(会計)期間	第83期
会計期間	自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日	自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日	自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日
売上高 (百万円)	5,626	5,318	24,721
経常利益 (百万円)	665	352	2,176
四半期(当期)純利益 (百万円)	669	340	1,301
純資産額 (百万円)	44,630	43,520	43,105
総資産額 (百万円)	54,668	53,273	52,418
1株当たり純資産額 (円)	243.44	236.07	233.76
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	3.67	1.85	7.09
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	81.0	81.5	82.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	843	654	2,931
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△35	△106	△1,787
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△542	△299	△570
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	7,406	7,909	7,693
従業員数 (名)	1,552	1,630	1,623

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社に異動はありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数(名)	1,630 (2,440)
---------	------------------

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は、当第1四半期連結会計期間の平均人員を( )外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数(名)	245 (475)
---------	--------------

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は、当第1四半期会計期間の平均人員を( )外数で記載しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
繊維事業	3,080	99.5
合計	3,080	99.5

(注) 1 セグメント間取引については、内部振替前の数値によっております。

2 金額は、製造原価によっております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

当社グループ(当社及び連結9社以下同じ)は見込み生産を行っている為、該当事項はありません。

#### (3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
繊維事業	5,005	95.0
非繊維事業	312	87.3
合計	5,318	94.5

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期におけるわが国経済は、昨年度後半から急速に悪化した景気も、一部の業種で在庫調整が進み、生産・輸出には改善の兆しが見られますが、雇用および所得の悪化から、個人消費の低迷は続き、景気は予断を許さない厳しい状況で推移しました。

繊維業界においても個人消費の低迷が影響し、依然として厳しい環境にあります。

このような状況において、当社グループは、原料加工から最終製品までを一貫生産し販売する専門メーカーとしての特性を活かし、景気に左右されない差別化商品の企画開発を進めてまいりました。また、グループ全社を挙げて効率性アップに取り組み、収益改善に努めておりますが、個人消費の低迷の影響を受け、厳しい経営環境が続いております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は5,318百万円（前年同四半期比5.5%減）、営業利益は363百万円（前年同四半期比25.6%減）、経常利益は352百万円（前年同四半期比47.0%減）、四半期純利益は340百万円（前年同四半期比49.2%減）となりました。

なお、セグメント別の状況は次の通りであります。

① 事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[繊維事業]

靴下部門は、消費低迷の影響により、全体として低調に推移しました。その中でも、レギンス、柄ストッキング等のファッショントレンド商品は好調に推移しましたが、ベーシック商品の低迷をカバーするには至らず、同部門の売上高は4,315百万円（前年同四半期比4.1%減）となりました。

インナーウェア部門は、新ブランドの展開など市場の拡大に努めましたが、市況は依然として低調に推移しており、売上高は689百万円（前年同四半期比10.4%減）となりました。

これらの結果、繊維セグメント全体では売上高5,005百万円（前年同四半期比5.0%減）、営業利益は232百万円（前年同四半期比37.4%減）となりました。

[非繊維事業]

非繊維事業については、介護用品は引続き順調に推移しましたが、不動産売上が長引く不動産不況の影響を受け、低迷を続けております。その結果、非繊維セグメント全体では売上高312百万円（前年同四半期比12.7%減）、営業利益は131百万円（前年同四半期比12.0%増）となりました。

② 所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[日本]

日本での売上高は5,273百万円（前年同四半期比6.1%減）となり、営業利益は390百万円（前年同四半期比23.8%減）となりました。

[中国]

中国での売上高は1,033百万円（前年同四半期比11.3%増）となり、営業利益は60百万円（前年同四半期比51.0%増）となりました。

なお、売上高にはセグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は53,273百万円となり、前連結会計年度末に比べ855百万円増加いたしました。主な増減内容は、現預金の増加215百万円、売上債権の減少659百万円、たな卸資産の増加524百万円、有形固定資産の減少237百万円、株式の市場価格の上昇により時価が回復したことによる投資有価証券の増加974百万円等によるものであります。

負債の部は、9,753百万円となり、前連結会計年度末に比べ440百万円増加いたしました。内容は、仕入債務の増加101百万円、時価評価による通貨オプションの増加278百万円等によるものであります。

純資産の部は、43,520百万円となり、前連結会計年度末に比べ415百万円増加いたしました。四半期純利益を340百万円計上しましたが、前期決算に係る配当金551百万円等により、利益剰余金合計では211百万円の減少となり、その他有価証券評価差額金および繰延ヘッジ損益の増減等により、評価・換算差額等が632百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は、前連結会計年度末の82.0%から81.5%に低下しております。



(3) キャッシュ・フローの状況

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

税金等調整前四半期純利益359百万円の計上と、減価償却費301百万円、及び売上債権の減少656百万円による収入がありましたが、たな卸資産の増加539百万円等による支出により差引654百万円の収入となり、前年同四半期に比べ189百万円の収入の減少となりました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

主に有形固定資産の取得により106百万円の支出となり、前年同四半期に比べ70百万円の支出の増加となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

主に配当金の支払いにより299百万円の支出となり、前年同四半期に比べ242百万円の支出の減少となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ215百万円増加し7,909百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は130百万円であります。

### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。

また、当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	391,039,000
計	391,039,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年8月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	208,195,689	208,195,689	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	208,195,689	208,195,689	—	—

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年6月30日	—	208,195,689	—	31,706	—	7,927

#### (5) 【大株主の状況】

当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成21年3月31日)に基づく株主名簿により記載をしております。

### ① 【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 24,273,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 179,779,000	179,779	—
単元未満株式	普通株式 4,143,689	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	208,195,689	—	—
総株主の議決権	—	179,779	—

(注) 1 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式780株が含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が900株含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アツギ株式会社	神奈川県海老名市 大谷北1丁目9番1号	24,273,000	—	24,273,000	11.65
計	—	24,273,000	—	24,273,000	11.65

(注) 当第1四半期会計期間末の自己株式数は24,302,829株であります。

## 2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月
最高(円)	141	139	146
最低(円)	127	128	133

(注) 上記最高・最低株価は、東京証券取引所の市場第一部におけるものであります。

## 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)については、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)については、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、また、当第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,009	7,793
受取手形及び売掛金	3,077	3,737
商品及び製品	3,937	3,486
仕掛品	2,141	2,034
原材料及び貯蔵品	574	607
繰延税金資産	334	336
その他	324	273
貸倒引当金	△33	△36
流動資産合計	18,365	18,233
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※ 6,412	※ 6,496
機械装置及び運搬具（純額）	※ 3,868	※ 4,051
工具、器具及び備品（純額）	※ 132	※ 133
土地	17,299	17,299
建設仮勘定	197	167
有形固定資産合計	27,910	28,147
無形固定資産	529	546
投資その他の資産		
投資有価証券	5,783	4,809
その他	690	688
貸倒引当金	△5	△6
投資その他の資産合計	6,468	5,490
固定資産合計	34,907	34,184
資産合計	53,273	52,418

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,502	2,401
未払法人税等	44	93
賞与引当金	50	179
その他	2,386	1,807
流動負債合計	4,983	4,481
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	2,460	2,460
退職給付引当金	1,611	1,661
その他	697	709
固定負債合計	4,769	4,830
負債合計	9,753	9,312
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,706	31,706
資本剰余金	11,389	11,389
利益剰余金	6,027	6,238
自己株式	△2,404	△2,400
株主資本合計	46,718	46,933
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△612	△1,575
繰延ヘッジ損益	△854	△575
土地再評価差額金	△1,680	△1,680
為替換算調整勘定	△160	△107
評価・換算差額等合計	△3,307	△3,939
少数株主持分	109	111
純資産合計	43,520	43,105
負債純資産合計	53,273	52,418

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	5,626	5,318
売上原価	3,329	3,212
売上総利益	2,297	2,106
販売費及び一般管理費	※ 1,808	※ 1,742
営業利益	488	363
営業外収益		
受取利息及び配当金	79	72
持分法による投資利益	9	1
為替差益	97	—
その他	12	24
営業外収益合計	199	99
営業外費用		
租税公課	7	6
為替差損	—	93
その他	14	10
営業外費用合計	22	110
経常利益	665	352
特別利益		
固定資産売却益	41	—
貸倒引当金戻入額	5	3
投資有価証券売却益	—	4
その他	0	—
特別利益合計	47	7
特別損失		
固定資産除却損	2	0
その他	0	—
特別損失合計	3	0
税金等調整前四半期純利益	709	359
法人税、住民税及び事業税	17	16
法人税等調整額	22	2
法人税等合計	39	18
少数株主利益	0	0
四半期純利益	669	340



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	709	359
減価償却費	334	301
のれん償却額	—	12
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△124	△49
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△3
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△139	△128
受取利息及び受取配当金	△79	△72
持分法による投資損益 (△は益)	△9	△1
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△4
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	—
有形固定資産売却損益 (△は益)	△41	—
有形固定資産除却損	2	0
売上債権の増減額 (△は増加)	711	656
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△691	△539
仕入債務の増減額 (△は減少)	336	79
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△12	1
その他	△172	4
小計	818	617
利息及び配当金の受取額	72	71
法人税等の支払額	△47	△34
営業活動によるキャッシュ・フロー	843	654
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△192	△96
有形固定資産の売却による収入	170	—
無形固定資産の取得による支出	—	△3
投資有価証券の取得による支出	△49	△240
投資有価証券の売却による収入	36	234
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35	△106
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△249	△295
自己株式の増減額 (△は増加)	△292	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△542	△299
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	△32
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	318	215
現金及び現金同等物の期首残高	7,087	7,693
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 7,406	※ 7,909

【継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況】

当第1四半期連結会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第1四半期連結会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
(四半期連結損益計算書) 前第1四半期連結累計期間において、特別利益の「その他」に含めていた「投資有価証券売却益」は、特別利益総額の100分の20を超えたため、当第1四半期連結累計期間より区分掲記しております。なお、前第1四半期連結累計期間の特別利益の「その他」に含まれる「投資有価証券売却益」は0百万円であります。

【簡便な会計処理】

当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
固定資産の減価償却費の算定方法 定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第1四半期連結会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
※ 有形固定資産の減価償却累計額 18,653百万円	※ 有形固定資産の減価償却累計額 18,461百万円

## (四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
※ 販売費及び一般管理費の主なもの	※ 販売費及び一般管理費の主なもの
給与手当等 601百万円	給与手当等 583百万円
賞与引当金繰入額 31 "	賞与引当金繰入額 28 "
退職給付費用 23 "	退職給付費用 22 "
広告宣伝費 138 "	広告宣伝費 137 "
支払運賃 233 "	支払運賃 218 "
研究開発費 139 "	研究開発費 130 "

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金勘定 7,406百万円	現金及び預金勘定 8,009百万円
現金及び現金同等物 7,406百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 △100 "
	現金及び現金同等物 7,909百万円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)及び  
当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	208,195,689

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	24,302,829

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	551	3	平成21年3月31日	平成21年6月29日

- (2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当第1四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	繊維事業 (百万円)	非繊維事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	5,267	358	5,626	—	5,626
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	—	0	(0)	—
計	5,267	358	5,626	(0)	5,626
営業利益	371	116	488	(0)	488

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 事業の内容

- (1) 繊維事業……靴下及びインナーウェア等の製造及び販売
- (2) 非繊維事業…不動産の賃貸及び売買、介護用品の製造及び販売

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	繊維事業 (百万円)	非繊維事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	5,005	312	5,318	—	5,318
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	—	0	(0)	—
計	5,005	312	5,318	(0)	5,318
営業利益	232	131	363	(0)	363

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 事業の内容

- (1) 繊維事業……靴下及びインナーウェア等の製造及び販売
- (2) 非繊維事業…不動産の賃貸及び売買、介護用品の製造及び販売

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	日本 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	5,606	19	5,626	—	5,626
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	10	908	918	(918)	—
計	5,616	928	6,545	(918)	5,626
営業利益	512	40	553	(64)	488

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	日本 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	5,233	85	5,318	—	5,318
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	40	947	988	(988)	—
計	5,273	1,033	6,306	(988)	5,318
営業利益	390	60	451	(87)	363

#### 【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

海外売上高が、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

海外売上高が、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

#### (有価証券関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)

その他有価証券で時価のあるもの

区分	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	6,242	5,639	△602
その他	30	20	△9
計	6,272	5,660	△612

#### (デリバティブ取引関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)

ヘッジ会計を適用しているため注記を省略しております。

## (1株当たり情報)

## 1 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
236.07円	233.76円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第1四半期 連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計金額(百万円)	43,520	43,105
普通株式に係る純資産額(百万円)	43,411	42,994
差額の主な内訳(百万円) 少数株主持分	109	111
普通株式の発行済株式数(千株)	208,195	208,195
普通株式の自己株式数(千株)	24,302	24,273
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の 数(千株)	183,892	183,921

## 2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
1株当たり四半期純利益 3.67円	1株当たり四半期純利益 1.85円
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益 —	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益 —

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	前第1四半期 連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(百万円)	669	340
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	669	340
普通株式の期中平均株式数(千株)	182,617	183,901

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第1四半期連結会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間末におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。



## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年 7 月31日

アツギ株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 田 洋 一 ⑩

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 田 英 志 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアツギ株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アツギ株式会社及び連結子会社の平成20年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 8 月 6 日

アツギ株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤 明 典 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉田 英 志 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアツギ株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アツギ株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成21年8月6日

**【会社名】** アツギ株式会社

**【英訳名】** ATSUGI CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 藤 本 義 治

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長藤本義治は、当社の第84期第1四半期(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

